

クラス担任のための Career Guidance

2013 >> VOL.17

キャリアガイダンス 特別編集



キャリア教育コーディネーター
平賀恵美子さん
リクルートで「就職ジャーナル」「キャリアガイダンス」副編集長、高校生向け進路情報誌「リクルート進学ブック」編集長を経て、2006年3月独立。子どもの体験活動プログラムの開発・運営や学校のキャリア教育の支援活動を行うNPO法人じぶん未来クラブの理事。芦花高校以外にも都立高校でのキャリア教育支援のほか、企業とタイアップした子ども向け職業観の育成プログラムの開発・運営なども行う。第8期東京都生涯学習審議会委員。

■ 夏休み 社会人インタビュー 授業プラン例

事前準備

○ 候補者を探し、アポとり候補を決める

進路情報誌の職業一覧などから、会ってみたい職業の候補を探す。さらにその職業を調べ、アポとりのイメージをつけ、夏休みまでに自分でアポとりを行う。

○ 社会人に何を聞けばいいのか考える【基本編】

質問力を上げるための授業。先生が心を動かされたインタビューなどを2種類くらい用意して、どんなことに心が動かされるのか、どんな質問をすればいいのかを考える。

○ 社会人に何を聞けばいいのか考える【実践編】

先生自身の話を、生徒が質問をして聞き出す。身近な先生でも、話を聞くこと意外なことがわかり、インタビューする意味を体感する。

夏休み中

○ 社会人インタビュー&原稿をまとめる

各自アポとりをした社会人に会いに行き、インタビューをする。家族は禁止。どんな仕事の誰でもいいので、第三者の話を聞くように。その内容を原稿にする。

事後

○ インタビュー内容発表

夏休みの宿題原稿をもとに、グループで発表しあう。グループの代表を決めて、クラス全員で話を聞く。

<インタビュー質問&記録用紙>

※ 本号に掲載したワークシートは、ダウンロードが可能です。
http://souken.shingakunet.com/career_g/

■ <社会人に何を聞けばいいのか考える>授業のヒント

【基本編】

● 準備するもの

先生自身が心を動かされた人のインタビュー原稿 2種類くらい

● 手順

- ① 各自で原稿を読み、心を動かされた部分にアンダーラインを引き、ワークシートに書き出す。
- ② それらの内容を聞くためには、どんな質問をすればいいと思うか、質問のコツとすることを各自3つ考える。
- ③ グループで話し合い、質問のコツを5つ決める。
- ④ クラスの中でそれを発表しあひ、どんな質問をすればいいかをたくさん共有する。

【実践編】

● 準備するもの

先生が、自分のことについて書いた事前シートを準備して全員に配る。
<事前シート内容例>教師歴、趣味、最近の自分に起こったうれしいできごと、将来の夢、どんな高校生だったか、当時就きたかった職業、教師の道を考えてきつかけ、教師になって以前に抱いていたイメージとの違い、教師になって一番きつかったエピソード、教師になって一番うれしかったエピソード、生徒にどう成長してほしいと考えて日常接しているか、社会人インタビューでどんなことに気づいてほしいか

● 手順

- ① 先生自身の話を書き出した事前シートの中で、気になる箇所に各自アンダーラインし、ワークのSTEP1に記入。
- ② グループで、先生にしてみたい突っ込み質問を5つ考える。
- ③ グループごとに順番に、先生に突っ込み質問(インタビュー)をする。
ルール: 同じ質問はしない。先生は正直に答える。

社会人インタビューまでではできなくても、夏休みには、生徒が日常と違う世界に触れる後押しをしてほしいと平賀さんは言う。

「夏祭りの手伝いでも、ボランティア活動でもいいでしょう。例えば、夏休み前に全員で『夏休みに挑戦したいこと』を紙に書いて共有し、その体験を休み明けにレポート&発表する。今までの自分の生活範囲を超えた人との出会いを通じ、いろんなことへの挑戦

意欲を高める。まずは、勇気をもって生徒が行動できるように背中を押すことが大切です」

肝心なのは、生徒自身が会いたい職業の人を選んで自分でアポイントを取り、自ら会いに行くなど「挑戦」することだと平賀さん。

「実際に芦花高校では、漫画の編集者やカリスマ美容師など、社会の第一線で活躍する人と会えた生徒もいます。とかく大人は高校生には無理と、思いがちですが、できないのではなく、やる機会がなかっただけ。子どもたちは、驚くほどのパワーを秘めているんです」

しかも、ドキドキしながらアポイントを取り、苦労して勝ち取った約束なので、これまで社会人インタビューに遅刻したりドタキャンしたりという生徒は皆無だという。

「きっかけさえあれば、生徒は自分で動くようになります。夏休みの社会人インタビューには、そういう効果があると思いますよ」

夏休み明けにはレポートを作成し、グループで互いの体験を共有した。その後、グループの代表がクラス全員に発表する。合計すると10人近くの人の話を聞けるというわけだ。

「もちろん、全員がすごい体験をしてくるとは限りません。あまり積極的に動けなかった生徒もいるでしょう。でも、頑張った生徒の話の聞いてみると、もっとやればよかった、次は頑張ろうというふうな気づきにつながります」

社会人インタビューや地域での活動を通じて、大人に受け入れられ自分分の考えを伝えることが形になっていく醍醐味を味わい、体験でしか学べないことを得ていくのだ。

「先生は、そういう行動に駆り立てるためにあつたほうがいい。期待をかけ続けることが大事だと思います。そして、どうだった?とちゃんと聞いてあげると、「期待と負荷」が、次のヤル気につながっていくのだと思います」

期待をかけ、あおり続ける「期待と負荷」がやる気のカギ

「期待と負荷」が、次のヤル気につながっていくのだと思います」

夏休みに実践

夏休みこそ、生徒の感性を刺激し社会に広く目を向けるキッカケにする絶好の機会。そんな機会のために役立つ社会人インタビューの方法をご紹介します。

社会人と出会い、心を揺さぶる体験を!

きっかけさえあれば 生徒は自分で動く

夏休みは、生徒が学校を離れてさまざまな経験を積み絶好の時期。せっかくなので、普段なかなか話をする機会のない社会人と会い、刺激を受けてもらいたい。東京都立芦花高校で先生方と一緒に、1年生対象のそういったプログラムを提供しているのが、キャリア教育コーディネーターの平賀恵美子さん。

意欲を高める。まずは、勇気をもって生徒が行動できるように背中を押すことが大切です」

「単に質問を考えていけと言っても、深い質問はなかなかできません。気づいてほしいことを明確化しないと、仕事内容を聞くだけで終わってしまふ。その人ならではの物語を聞くにはどうすればいいか、事前準備として体験

「特に、先生が自分の話をする授業では、生徒との距離が近づき、先生と生徒の関係づくりにも役立ちます。ぜひ、挑戦してほしいですね」

仕事の内容ではなく 心が動く話を聞く方法

「先生は、そういう行動に駆り立てるためにあつたほうがいい。期待をかけ続けることが大事だと思います。そして、どうだった?とちゃんと聞いてあげると、「期待と負荷」が、次のヤル気につながっていくのだと思います」

指導に使える&ヒントがいっぱい キャリアガイダンス.net



夏休みの宿題や進路指導のヒントに! 『キャリアガイダンス』No.46 特集記事「高校生が社会を知る57の方法」もサイトでお読みいただけます。

http://souken.shingakunet.com/career_g/

- HRや授業で使えるワークシート
- 全部読める! バックナンバー
- ためになる他校の授業実践事例
- 通信・ガイダンスに使える! データ

キャリアガイダンス 検索